防災の手引き

Emergency Preparedness Handbook



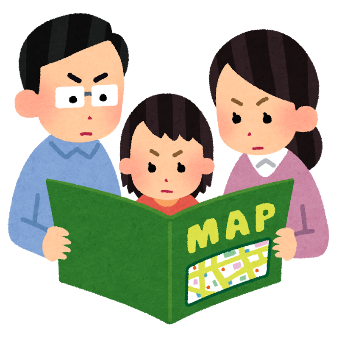
お客様へのお願い

この度は、当施設をご利用していただき誠にありがとうございます。

お客様の安全確保につきましては万全を期し、防災体制を整えておりますが、  
万一のため、この手引書をご一読いただきご協力をお願い申し上げます。

なお、火の元にはくれぐれもご留意ください。

お部屋につきましたら

①避難経路図で2か所以上の非常口とご自分の部屋との位置関係を確認し、  
非常口まで実際に歩いてみてください。

②非常用懐中電灯の位置やフロントの電話番号を確認してください。

③身体のご不自由な方は、あらかじめフロントにお申し出ください。

④防災に関して、ご不明・ご心配な点がございましたら、  
フロントにお申し出ください。

火災をださないために

①タバコは灰皿のある場所で吸ってください。タバコの火は灰皿の中で  
完全に消してください。

②ベッドでの喫煙はご遠慮ください。

③吸いがらはくずかごに捨てないでください。

④歩きならの喫煙はご遠慮ください。

⑤照明器具に衣類やタオルをかけないでください。

火災を発見したら

①落ち着いて、フロントか従業員にすぐに連絡してください。

②大声で叫ぶか、音をたてて周囲の人にしらせてください。

③煙や臭いなどで火災と思われる場合も、すぐにフロントか従業員に  
連絡してください。

火災が発生したら

①廊下など周囲の状況をすぐに確認してください。

②従業員や非常放送により火災の発生状況や避難の指示をしますので、  
落ち着いて行動してください。

非難される場合には

①廊下に火や煙が充満しているかどうか確認してください。

②従業員や非常放送の指示に従ってください。

③部屋をお出になるときは、延焼防止と煙の拡散防止のため、  
必ずドアや窓を閉め、部屋の鍵をもって出てください。

④服装や持ち物にこだわらず、早く逃げて下さい。

⑤エレベーターは絶対に使用しないでください。

⑥一度避難されてから、貴重品などを取りに部屋にもどることは  
危険ですので、絶対におやめください。

火や煙につつまれたら

①濡れタオルやハンカチなどで鼻や口をおおい、  
煙を吸わないようにしてください。

②できるだけ姿勢を低くし、壁に沿って煙と反対方向の  
非常口から避難してください。

③階段や廊下が火や煙で充満してどうしても逃げられない場合は、  
部屋に戻ってください。

万一逃げ遅れたら

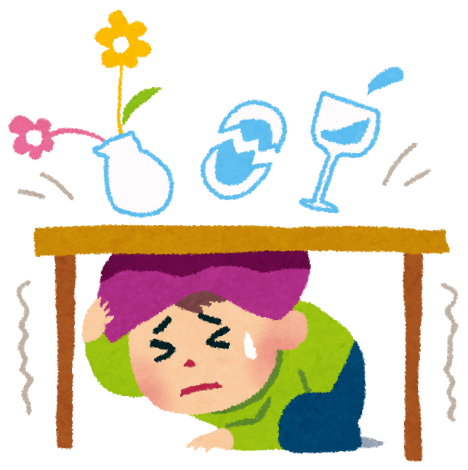
①気を落ちつけせて、避難できない旨をフロントに電話で連絡してください。

②空調設備のスイッチを切ってください。

③浴槽に水を張ってください。

④濡れタオルやシーツなどでドアのすき間をふさぎ、火や煙の侵入をふせいでください。

⑤窓からシーツやタオルなどを振ったり、夜間の場合は懐中電灯をふって、その人に知らせてください。



地震が起きたら

①落下物に注意し、身を守ってください。

②非難する際は、頭も保護してください。

③タバコの火をすぐ消し、ドライヤーなどの  
電気器具のプラグをはずしてください。

④ドアを開けて避難路を確保してください。

⑤従業員や非常放送の指示に従い、冷静に行動してください。

⑥エレベーターは絶対に使用しないでください。

⑦建物からむやみに飛び出さないでください。

⑧窓ガラスから離れてください。

⑨予報や警戒宣言が発令された場合は館内放送等によりおしらせいたしますが、テレビ、ラジオ情報にもご注意ください。

（ページ設定）

用紙サイズ：A4

印刷の向き：縦

複数ページの印刷設定：印刷の形式「見開きページ」

余白：上35mmｍ、下30mm、内側30mm、外側：15mm

日本語用フォント：メイリオ

英数字用フォント：日本語用フォントと同じ

サイズ：11pt

文字数と行数の指定：文字数と行数を指定する

文字数：42字

行数：43行

※すべての行に次の設定をします。

「1ページの行数を指定時に文字を行グリッド線に合わせる」のチェックを外す